



中津地区の人口・世帯（12月末）

人口（計）	24,939人
人口（男）	12,281人
人口（女）	12,658人
世帯数	11,273世帯

こんにちは。中津川市役所 中津事務所（市民協働課）です。
地域版広報紙「なかつ地区」令和6年2月号の発行です。
今回も3地区（西・南・東地区）から厳選した「地域情報」をご紹介します。
ご意見やご感想などございましたら下記宛に書面でお寄せください。

発行：中津事務所 岐阜県中津川市かやの木町2番1号
電話：0573-66-1111（内線325） FAX：0573-65-5273
E-mail：kyodo@city.nakatsugawa.lg.jp

ぎおんばジャンボリー はこう変わる！

毎年8月14日の夜に行われるぎおんばジャンボリーは、地域への愛着の醸成や青少年の健全育成を目的とした、お盆の風物詩ともいえるイベントです。実行委員会ではジャンボリーをより良い内容へと改革していくため、中学生と保護者を対象にアンケートを行い、令和6年度に向けた改善点を決定しました。



アンケート結果【抜粋】

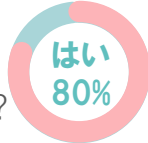
中学生

Q ぎおんばジャンボリーが好きですか？



保護者

Q 今後もお子さんを参加させたいですか？



一方で、改善点も多く上がりました



ただ集まるだけだから、必要ないと思っています。

待ち時間が長い。何をやっているのかわからない。全く声が聞こえない。



ぎおんばジャンボリー実行委員会を、中学生がやれば良い。

令和6年度 主な改善点

■ 音響・照明の質を向上します

新たな機材の購入のため助成金の獲得を目指しています。

■ 実行委員会メンバーとして中学生を募集します

会場アナウンス、開会式の司会・進行を行ってまいります。

■ がんばった連を表彰します

審査方法などについては今後検討します。

アンケート結果や改善点は市HPに詳しく掲載しています



このほか、交通安全対策や熱中症対策も強化します

地球温暖化防止に取り組んでいます

中津川市と市区長会連合会は、地球温暖化防止に向け、「ゼロカーボンシティ」を目指すことを共同で宣言しています。令和5年度の各地区の取り組みの一部を紹介します。

西地区 環境学習会を開催

西地区区長会は、一人当たりの家庭ごみ排出量が県平均を上回っている現状から、11月7日に環境センターで環境学習会を開催しました。区長や住みよい環境づくり推進員、中津西まちづくり協議会のメンバーが、雑紙リサイクルや衣類回収など、家庭ごみの減量化について学びました。

また、広報・ホームページを活用し、木箱コンポスト、ごみ減量、リサイクルなどについて啓発活動を行いました。

南地区 廃食用油の回収事業をスタート

ケイナクリーンと連携し、11月末から毎月の最終木曜日の可燃ごみの日に合わせて廃食用油を回収。初回（11月分）は70リットルが集まりました。

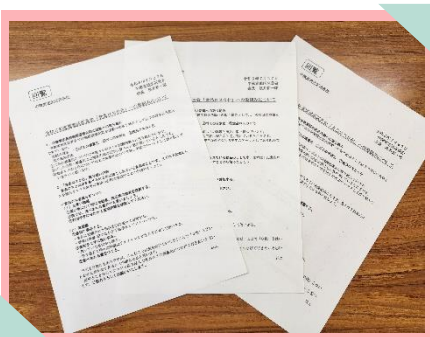
回収した廃油は、明知鉄道のバイオディーゼル燃料として活用されます。この取り組みは、ごみ減量・CO₂の削減、エネルギーの地産地消につながります。

このほか、伐採木の炭・薪としての再利用、刈草や生ごみの堆肥化などに取り組まれました。

東地区 「食品ロスのゼロ化」についてPR

「食品ロスのゼロ化」の取り組みの意義と、食品ロスを減らすための工夫について回覧文書でPRしました。「買い物に行く前に冷蔵庫の食材を確認する」「食材を上手に使い切る」などのコツを紹介し、住民へ協力を呼びかけました。

令和4年12月から取り組みを始めた廃食用油の回収では、1年間で約810リットルの実績がありました。



できごと

東まち協 名古屋市を視察

中津東地区まちづくり推進協議会は、9月25日に視察研修（中津東地区区長会協賛）を行い、約30人がリニア・鉄道館と名古屋城を訪問しました。



リニア・鉄道館では、新旧の車両展示や、超電導リニアを体験できるミニシアターなどを見学し、鉄道技術の変遷やリニアの仕組みなどについて理解を深めました。

また、名古屋城では、中津川で産出されたヒノキを建材の一部に使用した本丸御殿を見学しました。

西まち協 中京学院大と連携

中津西まちづくり協議会は、中京学院大学経営学部2年生の「教養ゼミ」の授業に協力し、学生と連携してウォーキングマップの作成に取り組んできました。



12月19日に大学で成果発表会が行われ、4グループの学生が「親子でも楽しめるウォーキングマップ」や「ウォーキングしながら危険な場所を確認してもらおうマップ」などをテーマに、活動の成果を報告しました。

地域による防災力の強化

令和6年元旦、能登半島を震源に発生した最大震度7の地震。多くの方が休暇中の年始に発生した災害は、私たちに常に「想定外を想定する」ことの大切さを突きつけました。

中津3地区では、いざというときに自分たちの手で地域を守るため、それぞれ防災・減災に取り組んでいます。令和5年度の内容の一部を紹介します。

避難所運営訓練

東地区は11月12日に東小学校で、南地区は11月19日に第二中学校で、避難所開設・運営訓練が行われました。

東地区



東小学校避難所運営委員会（自主防災会、防災士、女性防火クラブ、施設管理者）などの約60人が参加し、総務・救護・施設・食料・物資の各班に分かれて、避難所運営の訓練を行いました。参加者は、簡易ベッドやマンホールトイレなどを手際よく設置したり、実際の災害時を想定した受付の手順を確認しました。

南地区



第二中学校、南小学校などの避難所運営委員会と、生徒計約150人が参加。生徒と大人が一緒になってテントやマンホールトイレを設置したほか、避難者の受付や誘導の流れを実践しました。生徒たちも地域を守る担い手の一人として、積極的に取り組んでいます。

まち協の取り組み

各まちづくり協議会でも、様々な防災の取り組みを行いました。



西地区 防災円卓会議

中津西まちづくり協議会の安全安心部会は11月18日、桃山会館で防災円卓会議を開きました。

令和6年度に「子どもが参加する防災訓練」を計画しており、住民のアイデアを反映させる場として開催。親子連れなどが参加し、グループごとに意見や提案を付せんを書いて発表しました。

東地区 起震車体験

中津東地区まちづくり推進協議会は、12月17日にJAひがしみの中津川支店駐車場で起震車体験を行いました。参加者約100人が、地震の揺れの大きさを実感しました。



受賞しました

藍綬褒章（社会福祉功績）

民生・児童委員 中澤なみ子さん

中澤さんは、平成10年から現在までの25年間、民生・児童委員として活動。南地区民生委員児童委員協議会会長も務めています。

11月22日に南地区民生委員児童委員協議会の委員の皆さんからお祝いの花が送られました。



▲お祝いの花を受け取る中澤さん（左）

県自治連絡協議会長感謝状 同会前常任理事 足立 稔さん

足立さんは、令和3年度から2年間、県自治連絡協議会の常任理事を務めました。

11月10に行われた同協議会研修大会で、退任役員として感謝状が贈呈されました。



▲足立稔さん

阪神・淡路大震災

の教訓に学ぶ 防災・減災

市区長会連合会では11月16、17の両日、神戸市などを訪問し、阪神・淡路大震災の教訓から防災・減災について学びました。中津3地区からも区長22人が参加し、いざというときに地域を守るにはどうすべきか考えました。今回は、視察内容の一部を紹介します。

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

1995年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の地震によって引き起こされた阪神・淡路大震災。

館内では、震災のすさまじさを再現したシアター映像やジオラマ、復興に至るまでの過程についての資料を見学し、地域が果たすべき役割について考えました。

震災を体験した「語り部」は、「地域のコミュニケーションの大切さを実感した」と話し、子どもたちに地域の災害の歴史や地形を伝えることの重要性を語ってくれました。



◀震災の資料を見学する参加者

北淡震災記念公園 野島断層保存館

北淡町（現淡路市）では、倒壊・損壊した家屋が9割を超す中で、住民や消防団員の日ごろからの情報交換のおかげで、早期に救助活動を始めることができたそうです。

日常生活の中でお互いの暮らしを熟知していたため、がれきの下に埋まった人の位置を推測でき、地震が起きたその日のうちに「行方不明者ゼロ」を発表できたといいます。

また、この施設には震源となった活断層も保存されており、将来起こりうる地震についても理解を深めました。



◀保存された断層を見学する参加者



参加者

地域を知ることの大切さを若い人（子どもたち）へ伝えていきたい。



参加者

区の避難訓練に今回見たアイデアを生かしていきたい。

能登半島地震 義援金について

区長会連合会では、被災された方々に一日でも早く普段の生活を取り戻していただくために、義援金を募ることといたしました。

集まった義援金は、日本赤十字社へ送金します。

各班長・町内会長等を通じてご案内をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

なお、他の機関や団体へすでに寄付をされた方も多いと思います。区長会連合会の義援金は強制ではありませんので申し添えます。

減災グッズを備えよう！

減災グッズチェックリスト (人と防災未来センター)

- 常に携帯する「0次の備え」
- 非常時に持ち出す「1次の備え」
- 数日間をしのぐ「2次の備え」

ダウンロード
はこちら



この減災グッズチェックリストは、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターホームページ(<https://www.dri.ne.jp/>) からダウンロードできます